

東京学芸大 教育  
小平市立花小金井南中

中橋美智子  
○ 斎藤陽子

### 〔目的〕

着心地よいため、の被服の条件の一つとして動きやすさがあげられる。衣服着用時における上半身の運動・動作による上肢の動きは、袖の機能性により著しく影響される。特にスポーツウェア、ワーキングウェアにはその機能性が要求され、近年伸縮自在のニット地が多く利用されている。そこで袖の形態、ゆとり量、素材の異なるフラウス着用により、動作時における身体におよぼす影響について比較検討を試みた。

### 〔方法〕

試料は織物地でセットインスリーブの袖山の高さの異なるもの6種 ( $\frac{AH}{4} + 4$ ,  $\frac{AH}{4} + 3$ ,  $\frac{AH}{4} + 2$ ,  $\frac{AH}{4} + 1$ ,  $\frac{AH}{4}$ ,  $\frac{AH}{5}$ )、ヨークスリーブ、キモノスリーブ、ラクルانسリーブ、AHの小さいきつめのものを、ニット地でセットインスリーブのもの ( $\frac{AH}{4} + 4$ ) を製作した。動作時における衣服圧、筋活動、上肢上挙限界角度、上肢上挙時における裾の持ち上がり量の測定を行ない、また写真による動作時の形状変化の解析を試みた。衣服圧の測定には抵抗型歪計を用い、筋活動は表面電極誘導法によった。

### 〔結果〕

1) 衣服圧は袖山の高いものほど大で、キモノ、ラクルン、ニット地は小さい。2) 筋活動は、袖山の低いもの、ヨーク、キモノ、ラクルン、ニット地において筋の動きが小さい。3) 上肢上挙限界角度は、袖山の低いものほど大で、ラクルン、ヨークも大きい。4) 上肢上挙時の裾の持ち上がり量は、衣服圧の大きさに比例する。